

御楼門復元の意義



県立図書館長 原口泉

鹿児島城御楼門は72万石、天下第2の大薩摩藩のシンボルでした。世界文化遺産の京都二条城を凌ぐ、国内最大級の規模を持つ木造建造物です。

鹿児島城は、領内各地に置かれた外城（郷）の中心として内城と呼ばれ、近世を通じて藩主の居城でした。城山と山麓の居宅遺構、石垣、堀などの中核部だけでなく、奉行所など多くの役所の遺跡を含めて、その規模の大きさは際立っています。

全体として国指定の重要な価値を持つ史跡と言え、その威容は、古来、多くの人によって描かれました。明治5年には明治天皇も行幸されています。

御楼門が、民間主導で官民一体となって復元されましたことは、鹿児島の新しい時代の到来を象徴しているかのようです。宝暦治水が縁で姉妹県となった岐阜県にも御協力をいただきました。

今回、県立図書館が所蔵している鹿児島城の古絵図を中心に展示しています。

鹿児島の新しいシンボル御楼門を中心に、愛する郷土鹿児島がますます発展していくことを心から祈念します。